

令和7年度

「運営に関する計画」

大阪市立放出中学校

令和7年4月

＜校訓＞

自主

協同

責任

＜学校教育目標＞

人間尊重の精神を基盤として、「豊かな心」と「たくましい心身」、「確かな学力」を育む教育活動を推進する

大阪市立放出中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1. 学校運営の中期目標

(現状と課題)

全体として、生徒・保護者は学校の取組みに対して肯定的な意見を持ち、安定した学校運営ができています。しかし、全体に学力が低く、高位層が少なく、低位層が多い二極化が進んでいる現状である。生徒・保護者アンケートにおける家庭学習についての質問には、保護者からの否定的な意見が多いことから、教職員の授業力アップに努め、基礎学力の向上を図ることが喫緊の課題である。

現在、学校は一定落ち着いた状況にあるものの、問題行動も少なからずみられ、まだまだ予断を許さない状況である。今後も引き続き、学校・地域・家庭の連携を密にしていける必要がある。

(中期目標)

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を、令和3年度末より向上させる。

令和7年度末の校内調査において新たに不登校になる生徒の割合を令和3年度より減少させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

令和7年度のチャレンジテストにおける標準化得点を、令和3年度より向上させる。

令和7年度の大阪市英語力調査(GTEC)のトータルスコアを令和3年度より向上させる。

令和7年度の全国体力・運動能力・運動習慣調査における平均の記録を、令和3年度より向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

・デジタル教材を活用した授業を週3回以上実施する。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

・令和7年度の校内調査において「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を81.6%以上にする。(前年度81.5%)

・令和7年度末の校内調査において前年度不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

・令和7年度末の校内調査において新たに不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

・令和7年度の校内調査において「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を前年度以上にする。(前年度81.4%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

・令和7年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、前年度以上にする。(前年度48.6%)

・令和7年度の中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において、経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

・令和7年度の大阪市英語力調査(GTEC)におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を前年度以上にする。(前年度41.5%)

・R7年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を、前年度以上にする。(前年度53.49%)

【学びを支える教育環境の充実】

・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(前年度5.7%)

・ゆとりの日を週に1回以上実施する。

3. 本年度の自己評価結果の総括

--

大阪市立放出中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した C: 取り組んだが目標を達成できなかった	B: 目標どおりに達成した D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
------	--	--

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度の校内調査において「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を81.6%以上にする。(前年度81.5%) ・令和7年度末の校内調査において前年度不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ・令和7年度末の校内調査において新たに不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ・令和7年度の校内調査において「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を前年度以上にする。(前年度81.4%) <p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、前年度以上にする。(前年度48.6%) ・令和7年度の中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において、経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ・令和7年度の大阪市英語力調査(GTEC)におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を前年度以上にする。(前年度41.5%) ・R7年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を、前年度以上にする。(前年度53.4%) <p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(前年度5.7%) ・ゆとりの日を週に1回以上実施する。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 その他】</p> <p>・教職員の指導体制を確立させる。</p> <p>指標</p> <p>・全教職員に校訓である自主、協同、責任を周知徹底する。また、学校・PTA・地域との協力体制をより充実した内容を確立させる。</p>	
<p>取組内容②【区分 組織運営】</p> <p>・組織的な学校運営体制を確立させる。</p> <p>指標</p> <p>・「運営に関する計画」について全教職員で学期に1回、目標の再確認・協議をする。また、各校務分掌間で常に連携し、全体の業務を充実させる。</p>	
<p>取組内容③【区分 授業研究を伴う校内研修の充実】</p> <p>・個人や組織の資質向上をめざし、研修の充実に努める。</p> <p>指標</p> <p>・研究授業月間をつくり、研究授業を実施する。</p> <p>・OJT該当教員と1年次・2年次・中堅研修該当教員による校内全体での研究授業を年に1回実施する。</p>	
<p>取組内容④【区分 学校評価の充実】</p> <p>・学校評価の実施と公表を適切に行う。</p> <p>指標</p> <p>・学校協議会を年間3回実施し、学校評価活動を充実させる。また、自己評価などにより、学校運営や教育活動の改善に活かす。</p>	
<p>取組内容⑤【区分 学校・家庭・地域の連携の推進】</p> <p>・学級担任や生徒指導部と連携して、家庭・地域・関係諸機関との連携を充実させる。</p> <p>・家庭訪問などを通じて、家庭と学校との連携を密にし生徒一人ひとりの生活態度の把握に努める。</p> <p>指標</p> <p>・学年会、生活指導部会などで生徒情報を共有し、職員連絡会を通して全体に周知する。</p> <p>・家庭訪問や教育相談の機会を活用して生徒の実態把握に努める。またその情報を校内で共有する。</p> <p>・生活面や健康面で配慮を要する生徒研修を実施して、学校全体で生徒を見守る体制を構築する。</p>	
<p>取組内容⑥【区分 小中一貫した教育の推進】</p> <p>・組織的・計画的な小中連携を進める。</p> <p>指標</p> <p>・小中管理職間の連絡会を年間10回程度行う。また、小中教務主任間の連絡会を学期に1回程度行う。</p> <p>・小中連携アクションプランに基づいて、中学校で小学生が体験授業や体験部活動の小中交流行事を実施する。また、校種間連携研修を通じて、教科間連携を図る。</p>	

大阪市立放出中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した C: 取り組んだが目標を達成できなかった	B: 目標どおりに達成した D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
取組内容⑦【区分 自主学習習慣の確立】 ・生徒が自主的に学習に向かう態度を養う。	
指標 ・朝学習を通して、授業内容の定着や学力向上を図る。各テストごとに反省を記入し、自身の学習状況を分析させる。 ・長期休業や定期テスト前に各教科課題を出し、家庭での学習習慣を定着させる。	
取組内容⑧【区分 各教科(国語)】 ・漢字の読み書きの定着を図る。 ・話す、聞く、読む、書く力の向上を図る。 ・我が国の言語文化に対して意欲・関心を持たせる。	
指標 ・漢字ノートや漢字ドリル等を活用し、単元ごとの新出漢字や小学校で学習した漢字を反復練習させる。 ・単元ごとの目標に応じた言語活動を取り入れる。 ・視聴覚教材等を活用する等、主体的に学習に取り組める工夫をする。	
取組内容⑨【区分 各教科(社会)】 ・様々な事象に対する社会的な見方や考え方、表現力を養う。 ・持続可能な社会を形成する主権者としての態度を育成する。 ・基礎的な知識及び技能の習得と学力向上を図る。	
指標 ・一人一台端末を積極的に活用し、時事、現代社会、身近な地域の歴史等について情報収集や資料作成などを行う。 ・万博見学学習などを活用して、国際的な視点を持ち、諸課題を解決しようとする姿勢を身につける。 ・課題、小テストを定期的に実施する。	
取組内容⑩【区分 各教科(数学)】 ・小テストで計算力の向上に努める。 ・少人数授業での学習や個人の興味・関心を持つ授業に努める。 ・問題集やプリントを用いて、問題を解く力をつけさせる。 ・効果的にICT機器を活用する。	
指標 ・年間を通して、T・Tを実施する。 ・各学年、各学期、問題集の点検を行う。・各学年、2週間に1度は小テストを行う。	
取組内容⑪【区分 各教科(理科)】 ・副教材を使用し、知識の定着を図る。 ・実験・観察等のワークプリントを通して、理科への興味・関心を高め、考察を通し、科学的な見方や思考力を育成する。	
指標 ・副教材を使用し、知識の定着を図る。 ・実験・観察等のワークプリントを通して、理科への興味・関心を高め、考察を通し科学的な見方や思考力を育成する。	
取組内容⑫【区分 各教科(音楽)】 ・表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。	
指標 ・歌唱、器楽などについて各学期に実技テストを行うことで表現技能の向上を図る。 ・我が国ならびに諸外国の多様な音楽を学ぶことで鑑賞技能の向上を図る。 ・合唱や合奏のパートやグループ活動を通して対話的で深い学びを実践する。	
取組内容⑬【区分 各教科(美術)】 ・美術に関心を持たせ、意欲的に表現し、制作する喜びを感じさせるように指導する。 ・作品に興味を持たせ、鑑賞を深めて能力の向上を図る。	
指標 ・グループワークを多く取り入れるほか、ICT機器(タブレット、プロジェクターなど)を活用し、生徒らが親しみやすく取り組めるように工夫する。 ・すべての学年で、一単元につき一回以上、相互鑑賞の機会をつくる。	
取組内容⑭【区分 各教科(保健体育)】 ・保健体育授業で、自ら学び自ら考えることができるよう努める。 ・毎回の授業で補強運動を行い、基礎体力の向上を図る。	
指標 ・授業でのグループ学習を進めていき自ら学び考える力を養う。 ・基礎体力の向上をおこない、体力運動能力調査の数値を上げれるよう取り組む。	

大阪市立放出中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した C: 取り組んだが目標を達成できなかった	B: 目標どおりに達成した D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
------	--	--

年度目標	達成状況
取組内容⑮【区分 各教科(技術・家庭)】 ・環境整備を心がけて授業を進める。 ・実習を通し、自ら学び工夫する意欲を高める。	
指標 ・学んだことを実際の生活に活用できる「実践力」を培う。 ・基礎的・基本的な知識及び技能を確実に「身に付く」ように努める。	
取組内容⑯【区分 各教科(外国語(英語))】 ・英語への関心・意欲を引き出す。 ・言語活動を通して表現する力を育成する。 ・聞く、読む、話す、書く、発表するの5領域を均一に指導する。 ・家庭学習の促進を図る。	
指標 ・C-NETとの授業も含め、授業内容を工夫する。 ・ICT機器を用いて、デジタル教科書やYou-Tubeなどを活用し、視覚から適切な情報を得ようとする。	
取組内容⑰【区分 教育環境の整備】 ・学習の整備に努める。	
指標 ・「安全(防犯・防災)マニュアル」に基づいて、安心安全な教育環境づくりをめざす。また日常的に点検し、全教職員で確認する場を学期に1回設ける。	
取組内容⑱【区分 進路指導】 ・進路指導体制を整備し、学級担任を中心とした進路指導を行う。 ・進路情報の収集を計画的に行い、適切に情報を活用する。 ・さまざまな職業形態を知り、自らの特性が発揮できる進路選択を考えさせる。	
指標 ・家庭訪問、各学期末懇談ならびに進路懇談にて相互確認を重ねることにより進路実現に資する。 ・年2回進路説明会を実施することにより意識付けや注意喚起を行う。 ・各学年で進路学習を実施しキャリア教育の側面から自己実現を支援する。	
取組内容⑲【区分 特別支援教育の充実】 ・共に学び、共に育ち、共に生きる教育を進める。 ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を工夫する。	
指標 ・通常学級の学級活動や学校行事にクラスの一員として参加する。 ・特別支援学級の行事に参加する。	

大阪市立放出中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① 取組内容② 取組内容③ 取組内容④ 取組内容⑤ 取組内容⑥ 取組内容⑦ 取組内容⑧ 取組内容⑨ 取組内容⑩ 取組内容⑪ 取組内容⑫ 取組内容⑬ 取組内容⑭ 取組内容⑮ 取組内容⑯ 取組内容⑰ 取組内容⑱	
次年度への課題	
取組内容① 取組内容② 取組内容③ 取組内容④ 取組内容⑤ 取組内容⑥ 取組内容⑦ 取組内容⑧ 取組内容⑨ 取組内容⑩ 取組内容⑪ 取組内容⑫ 取組内容⑬ 取組内容⑭ 取組内容⑮ 取組内容⑯ 取組内容⑰ 取組内容⑱	

大阪市立放出中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ・令和7年度の校内調査において「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。(前年度81.5%) ・令和7年度末の校内調査において前年度不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ・令和7年度末の校内調査において前年度不登校生徒の改善に割合を増加させる。 ・令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ・令和7年度末の校内調査において新たに不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ・令和7年度の校内調査において「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を前年度以上にする。(前年度81.4%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【区分 いじめへの対応】 ・教育相談を整備し、保護者と連携をしながら子どもの実態把握に努める。 指標 ・年2回のアンケートを行い、年2回の教育相談を実施する。	
取組内容②【区分 安全対策】 ・防犯啓発講話や警察署による防犯教室を実施する。 ・学期ごとに校内の安全点検を行い、生徒の安全確保に努める。 指標 ・8月11月1月に教育相談機会を設け、指導に役立てる。 ・破損箇所調査書を作成し、それをもとに管理作業員とも連携を図り、修理、改善する。	
取組内容③【区分 防災教育の推進】 ・防災災害救助安全確保計画に基づき、それぞれが災害時に実働できるようにする。 指標 ・消防署に来ていただき、年2回避難訓練を実施する。	
取組内容④【区分 美化・環境整備】 ・校内美化に努める。 指標 ・美化点検月間を設け、美化意識を高める。 ・清掃担当者と連携を図り、掃除用具の点検、補充を行う。 ・年2回以上教室の油引きを行う。	
取組内容⑤【区分 健康な生活習慣の確立】 ・健康の保持・増進を図る知識を身につけさせる。 ・健康診断で疾病が見つかった生徒に、早期の治療を勧める。 指標 ・「ほけんだより」で保護者、生徒への啓発をする。 ・治療が必要な生徒に、治療勧告用紙を検診後配布し、懇談時再勧告する。	
取組内容⑥【区分 人権を尊重する教育の推進】 ・年間指導計画を作成し計画的・系統的に人権教育をすすめる。 ・3年間を通して系統立てた平和学習を行う。 ・視聴覚教材、読み物教材を利用し、人権教育を実践する。 ・12月の人権週間に全校生徒対象に人権教育講演会を行う。 指標 ・年間指導計画を立て、教職員が共通理解する。 ・1年生は大阪大空襲、2年生はヒロシマ・ナガサキや沖縄戦、3年生は現代の世界情勢という流れを確立する。 ・学習指導要領内容の4項目について(主として自分自身に関すること、主として他の人とかかわりに関すること、主として自然や崇高なものとかかわりに関すること、主として集団や社会とかかわりに関すること)、学年の実態に応じた教材を使用し、道徳の時間に実践する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容① 取組内容② 取組内容③ 取組内容④ 取組内容⑤ 取組内容⑥
次年度への課題
取組内容① 取組内容② 取組内容③ 取組内容④ 取組内容⑤ 取組内容⑥

令和7年度

大阪市立放出中学校

児童生徒等の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

1. 令和7年度の調査結果の概要(年 月 日現在)

区分	結果
①暴力行為の発生件数(件)	
②いじめの認知件数(件)	
②いじめの現在の状況で「解消しているもの」の件数の割合(%)	
③小・中学校における不登校児童生徒数(人)	
④高等学校における長期欠席生徒数(人)	
⑤高等学校における中途退学者数(人)	

2. 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
①暴力行為の状況等	
②いじめの状況等	
③小・中学校における不登校の状況等	
④高等学校における長期欠席の状況等	
⑤高等学校における中途退学の状況等	

※両表とも、小学校・中学校は①②③の項目、高等学校は①②④⑤の項目、特別支援学校は学校の現状に応じた項目について、それぞれ記入すること。